



T C A

—NEWS—

Vol.59 新春号

発行
富山市民国際交流協会
広報委員会

〒930-0002 富山市新富町一丁目2-3
CiCビル3F 富山市国際交流センター内
TEL (076)444-0642 FAX (076)444-0643
発行責任者 広報委員会委員長 岡田昌代



ローリー・ダーラム空港にて

海外研修 姉妹都市「ダーラム」訪問

平成19年10月9日～16日

海の彼方の揺ぎない友情

～「日本風茶室」の落成式出席と
親善交流～

予定よりだいぶ遅れて、ローリー・ダーラム空港に到着したのは夜になっておりました。

ロビーには、ダーラム姉妹都市協会富山委員会やホームステイのホストファミリーの方々が「DURHAM WELCOMES OUR TOYAMA FRIENDS」の横断幕を掲げて長い時間待って、出迎えてくださいました。

団員たちは、長旅の疲れもどこかへ忘れ、再会を懐かしんだり、ホストファミリーとのステキな出会いに感動し、手を取り合っていました。

あけまして おめでとうございます 富山市民国際交流協会

親善の意義を再確認

姉妹都市「ダーラム」を訪問

～「日本風茶室」の落成式出席と

親善交流～



ウィリアム・ベル ダーラム市長を表敬訪問



DUKE UNIVERSITY CHAPEL



完成した日本風茶室



祝賀会で茶会が…

当協会よりダーラム姉妹都市協会
富山委員会へ獅子頭を贈りました

米国 ダーラム姉妹都市協会富山委員会が、デューク大学日本庭園内に建設を進めていました「日本風の茶室」の完成式出席と親善交流を深める事を目的として、森富山市長を代表とする一行（当協会員14名）18名はダーラム市を訪問しました。

ローリー・ダーラム空港に到着すると、空港には、ダーラム姉妹都市協会富山委員会やホームステイのホストファミリーの方々が「DURHAM WELCOMES OUR TOYAMA FRIENDS ー富山の皆さんようこそダーラムへー」の横断幕を掲げて出迎えてくださり、団員たちは長旅の疲れもどこかへ忘れ、再会を懐かしんだりした後、それぞれホストファミリー先へ向い、旅装を解きました。

翌日には、デューク大学を見学し、礼拝堂や日本庭園をなつかしく訪ねながら、13年前にダーラムを訪問した時に贈呈した日本桜（15,000粒の種子を蒔く）の成木を見つけることが出来ました…感動しました。

茶室の完成式は、茶室の前庭で150余人が出席し、はじめに、完成を祝う式典を、そして、引き続いて茶室をダーラム姉妹都市協会富山委員会から建設の場所であるデューク・ガーデンの方へ贈呈するという式典が、滞りなくとりおこなわれました。式後には、デューク・ガーデン主催の祝賀会が、そして、夜にはドロシー・ボードンさん宅でディナーの招待を受けました。ダーラムの最後の夜は、今回お世話になった方々を招いて当訪問団主催の夕食会を開きました。楽しく語らい、一緒に歌をうたったり、越中おわら踊りにホストファミリーも加わって大きな交流の輪となりました。

お別れの朝、メイビス・メイヤーさん、ドロシー・ボードンさん、タキ・スコビルさんほかホストファミリーの皆さんに見送られて……See you again.!

当初の目的の後、富山市長一行（4名）と梅澤副団長一行（14名）は別々の行動となり、当協会員たちは首都ワシントンD.C.やニューヨークを見学し、ほんの少しだけアメリカを知って、たくさん感動して、ニューヨーク・ラガーディア空港から帰国の途に着きました。

今回の研修で、ダーラム姉妹都市協会富山委員会の皆さんが私たちを迎えるため、事前準備から3日間の接待ごとのご苦勞を思った時、そのボランティアの真の姿にただただ感動し、そして感謝し、多くのことを学びました。

海外研修 姉妹都市「ダーラム」を訪問 ～「日本風茶室」の落成式出席と親善交流～の報告展は、
1月12日～18日まで CiC 3 F 富山市国際交流センターで開催されます。

…あの時の感動が再び…
しっかりと根付いた日本桜

ワシントンD.C. 国会議事堂の前にて

ニューヨーク エンパイアステートビルをバックに…
（ロックフェラーセンターの展望デッキより）

姉妹友好都市委員会

横浜国際交流フェスタ …ウファ！ さすがに…

「かながわ国際交流財団(KIF)」と「財横浜市国際交流協会(YOKE)」を訪ねて

～先進交流協会に学ぼう～

国際性・先進性を有する国際文化都市の横浜で開催される「横浜国際フェスタ」を視察研修しました。

フェスタ視察の前に「かながわ国際交流財団」を訪ねました。外国籍県民の増加、定住化が進むことから、地球市民意識の高揚と多文化共生社会の実現に向けた取り組みや、地球規模の課題の解決に向けた取り組みを進めていること、また、指定管理者制度による施設運営のあり方や課題について聞きました。

フェスタを視察した後に、「財横浜市国際交流協会」を訪ねました。富山と大都市のフェスタは、環境や規模、条件などに違いはあるものの、共通の話題や問題を話しながら、担当者との質疑応答はたいへん参考になりました。

今回は、寄り道なしの研修旅行でしたが、台風一過の天候に恵まれて、ディナークルーズで夜景を楽しんだり、帰路のバスの車窓からは、富士山を見ることが出来ました。すそ野はさすがに風にゆれ、頂上付近には雪をいただいたその雄姿は、一服の絵を見ているようでした。

考えたり、探ったり、学んだり、感動したり、いろいろと心に残る旅でした。



KIFの資料室に「TCA-NEWS-」が…



富山でできるかな…

「横浜だがしや楽校&横浜国際フェスタ+もったいないフェスタ2007」の広い会場は、人、人、人…、ブースの数の多さ、熱気。そこには世界の音、香り、味が一杯にありました。そして、多くの子ども達が首から案内板を掛けて、大声で呼びかけたりと、一生懸命に活動している姿がかわいくて爽やかでした。

翌日、財横浜市国際交流協会を訪ねました。協会では、フェスタ担当職員として、専任1名と補助1名の体制で、フェスタ組織委員会は2月に立上げ、予算は約13,500,000円。3月には叩台、そして、イベント報告書（結果の概要のほか、アンケート…来場者、参加団体、ボランティアの声）の作成をし、新たな課題に取り組む。今年のフェスタのテーマは「エコ」と「交流」。併催した3つのイベントは、「横浜国際フェスタ」では、国際交流、協力、在住外国人支援等のボランティア団体（NGO、NPO）、国際機関、行政、学校、企業等が参加して20以上のセミナーを開催し、新しい出会いや楽しい交流と、25のアジアやアフリカなどの世界の味を楽しめる魅力を、「横浜だがしや楽校」では、子ども達が会場内でボランティア活動によってもらえるエコマネーを使って、会場で買物や遊びで楽しみ、「もったいないフェスタ」では、ライフスタイルの転換によるごみの減量を考えました。今回の参加者は、3つのイベント併催の相乗効果もあって73,000人。また、ボランティアの申込みは200名あったが、当日は120名が活動…等々。

事業課プロジェクトリーダー坂本淳氏に、フェスタの準備から報告書作成までの一連についてお話を伺い、私たちのイベント開催と、あまりのスケールの違いにとまどいもありましたが、それでも参加した皆さんは真剣に次々と質問をして多くのことを学び、富山で参考にしていきたい点は多々あったように思いました。

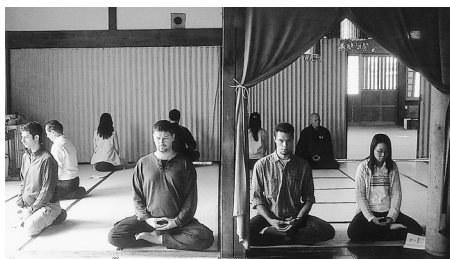
10月20日～21日に開催いたしました、～交流の風にのって～「国際交流フェスティバル2007」は、多くの方々のご協力により大変好評をいただきましたが、新たな課題や工夫など、先進交流協会から学びたいと、今回の視察に参加しました。

「国際交流フェスティバル2007」実行委員会
実行委員長 小 川 弘（当協会副会長）

総務企画委員会

委員会報告

にほんでんどうぶんかしょうかい 日本伝統文化の紹介



ざぜん
座禅

11月4日
うめざわちようかいがんに
梅沢町海岸寺

アメリカ、イギリス、イタリア、ロシア、ネパール、中国、韓国などの外国の人たち19人が参加しました。

住職から「何も考えず、落ち着いて…」と心構えや、手や足の組み方、姿勢、呼吸法などの指導を受け、静寂な雰囲気の中で、その奥深さに満足気でした。

「茶道」「ミニ花づくり」は「国際交流フェスティバル2007」のイベントの中で行なわれました。



かどう
華道

こうし ぼりたじゅんこ
講師 堀田順子さん

12月2日
当センター

花材（さんご水木・スプレーストック・雪冠杉）は、赤、白、グリーンで、クリスマスやお正月をイメージしました。

「はさみで切って剣山に刺すのは、花たちが痛くないかな。かわいそう!」などと、はじめての生花を、やさしい思いと一緒に生けました。

文化交流委員会

りょうりきょうしつ にほんりょうり 料理教室「日本料理」



11月15日
とやましちゅうおうほけん
富山市中央保健
福祉センター

メニュー：もみじごはん・鮭のマリネ・さつまいもの白和え
料理実習を始める前に、栄養士さんから「生活習慣病予防」についてお話を聞きました。

野菜をたくさん使って、調理方法を工夫した成人病予防食を作りました。

としわす 年忘れパーティー



12月9日
当センター

中国の遊び「踢毽子」（羽根蹴り）をしたり、音楽に合わせて踊りながら、参加者それぞれが持ち寄ったプレゼントを交換して楽しみました。

留学生や富山在住の外国の人たちと一緒に今年一年をしめくくりました。来年もいい年でありますように…!／

ボランティア委員会

多国言語文化交流クラス

カメルーン&ヤンバ語・ティカリ語 11月10日

講師 Fantong Wilson Yetoh氏（富山大学大学院博士課程）

カメルーンは、アフリカの縮図ともいわれてアフリカ全土の地理的景観が見られ、動植物も多岐にわたっています。200以上の民族が暮らし、その数の言語が話されています。ウィルソンさんは、父方がヤンバ語、母方がティカリ語ですが、両親が違う言語の場合は、父方のことばを継承するそうです。言語が違っても意志の疎通はできるそうです。また、公用語として東部はフランス語圏、西部は英語圏となっていて、以前はフランス語が主流でしたが、最近は英語が重要視されて来ている。

カメルーンでは、英語とフランス語の2ヶ国語が公用語となっています。



英語スピーチと討論の会(ESD)

11月例会 11月13日 18:30~20:00

テーマ 「Lifestyle Habit Health」
講師 Gaina Alexandru 氏（小児科医）

日本のように社会が経済的に豊かであれば、教育の高さ・医療の高さを享受することができ、平均寿命も高くなります。人々の平均寿命を、①遺伝子 ②社会・経済 ③生活習慣 ④文化 ⑤性差の5つの要因から分析すると、それぞれ①10% ②70% ③10% ④5% ⑤5%の関連性があります。……

エスキモー人、モンゴル、ロシア、インド、韓国、地中海地方等での事例を挙げながら、「社会と経済力」と「平均寿命」の関係の重要性を強調されました。

モルドバ共和国出身で6年間富山に住み、富山大学でPh.D.を取得されて、近々帰国されるガイナさんとの質疑応答から、参加者は、「生活習慣と健康」について、より広い視野から捉えてみる機会を得ることができました。

これらの講話・座談・討論などすべて英語で行なわれました。



国際教養委員会

交流の風にのって

10月20日～21日
CiCビル内／CiC前広場

国際交流フェスティバル in TOYAMA



今年で14回目を迎えた国際交流フェスティバルは、民族衣装・音楽・ダンス・味・パズル・スピーチ・ワークショップ・フォーラム・交流会等の催しに5,200人の来場者がありました。

「国際交流フェスティバル2007」では、地域の国際交流・協力団体及び関係者等の参加と協力により、各種の催事を実施し、日頃の活動状況及び情報を広く啓発するとともに、外国人との交流を図りながら参加者間の出会いの場づくりを目指しました。

～交流の風にのって～のテーマで、国籍や文化の違いを超えて、チョッと覗いてみて、話す、聞く、見る、知る、味わうことを通し、友だちみんなで「多文化共生」を、楽しく感じて、学べるイベントとなりました。

第1日目は、強風のため前庭のブースは、移動や中止となるハプニングもありました。

10月20日(土)

10月21日(日)

CiC前広場 2階 フース…とやまの国際交流・協力団体大集合!

活動紹介、各国手工芸品販売、わーど・かふゑてりあ など

スタンプラリーに挑戦しよう!

1階 アトリウム

開会式

民族衣装ファッションショー
(富山市民国際交流協会)

3階

各国紹介フース…世界の国々を訪ねてみよう!
(韓国、中国、米国、ブラジル、メキシコ、モルドバ、ロシア、セネガル、日本)

どんな国かな…フィンランド

地震のとき… (富山市民国際交流協会)

ロシア語スピーチコンテスト

5階 多目的ホール

とやま国際草の根交流賞授賞式
国際協力県民シンポジウム

講師 宮内 淳 氏

演題 「世界をめぐる感じたこと」
～地球環境と人間の幸せ～

((財)とやま国際センター)

3階

各国紹介フース…世界の国々を訪ねてみよう!
(韓国、中国、米国、ブラジル、オーストラリア、スロバキア、チェコ、ロシア、オーストラリア、モルドバ、カメルーン、日本 他)

外国のこともたち集まれ～船強お助け隊
(富山市民国際交流協会)

どんな国かな…バキスタン

ブラジルを楽しむ "CHÁ DA TARDE"

英語表現コンテスト (日本国際連合協会富山県本部)

民族衣装試着コーナー (富山市民国際交流協会)

世界とのふれあい (富山国際大学 国際教養学部)

茶道体験 (富山市民国際交流協会)

海の環境について考えよう

(UNEP NOWPAP RCU事務所)

世界自然・野生生物映像祭受賞作品上映会
(NPO法人地球映像ネットワーク)

5階 多目的ホール

フチ・カーどれすとらん
(インド、ブラジル、メキシコ 料理)

外国人カラオケ大会 ((財)とやま国際センター)

Hello! みんなでうたおう! 世界の歌♪

((財)ラボ国際交流センター)

オリジナルライブバンド (P.O.D)

ポリビア音楽を聞こう!

二胡演奏

中国の歌 (富山・中国ネットワーク、TCA中国語クラス)

韓国の歌 (TCAハングルクラス・チングサントガリ)

韓国打楽器を楽しもう!

マレーシアの踊り (マレーシア留学生会)

ブラジルサンバを歌おう! 踊ろう! 鳴ろう!

など

開会式



International Exchange Festival In Toyama 2007

記念講演 「在住外国人の言葉のギャップを橋渡しする方法」

～語学ボランティアから通訳ボランティアへ～

講師 西村 明夫 氏

(NPO法人多言語社会リソース(MIC) かながわ) プログラム・アドバイザー



言葉がよく分からない異国で病気になったりけがをした時ほど、不安なことはありません。そんな時、病院で通訳してくれる人がいたらどんなにか心強いことでしょう。病気やけがの時ばかりではありません。地域や学校などいろいろな生活場面で問題が生じたとき、通訳が必要となります。そこで、当協会では、まず、外国人と日本人のコミュニケーションをサポートする語学サポート制度を充実させるべく、取り組みを始めました。今回の講座はその第一歩です。4回シリーズの第1回めは、先進的な取り組みをすでに行っているNPO法人「MICかながわ」で中心となって活躍されている西村明夫氏をお招きし、記念講演を開催しました。「MICかながわ」は県の助成金を得、行政との連携で、2002年から医療通訳派遣事業を開始しています。約150人の登録通訳スタッフを有し、

患者個人ではなく、病院などからの要請にもとづいて、年間2,000～2,500件の派遣を行う、日本においては最も先進的な団体です。中立的立場、守秘義務の厳守等、通訳としての心得や、誤訳による通訳失敗例、例えば、英語の stomach は胃だけでなくお腹全体を示すこともあるのに、「胃が痛い」と訳したために、下痢でお腹が痛い患者が胃カメラ検査をさせられそうになった例などが紹介されました。通訳の誤訳は重大な問題を引き起こす可能性があるということを学びました。

講義ばかりではなく、受講者は各言語別に分かれ、実際に母親が9ヶ月の乳幼児を連れて受診するというシナリオに基づき、受講者が医者、患者、通訳になってロールプレイも行いました。専門用語などにとまどいながらも用語リストを片手に熱心にまた楽しく取り組みました。

西村氏によると、欧米では医療通訳制度が社会保障として整備されているけれど、日本ではまだまだで、ボランティアに頼っている面が大きいとのことでした。富山では、医療通訳ばかりでなく、多文化共生にともなう生活場面における通訳あるいは語学サポーターへの取り組みは始まったばかりです。しかし、今回のように先進事例について学ぶことにより、その必要性を再認識するとともに、エールを送ってもらったように感じました。

この講座は、英語・中国語・韓国語・ポルトガル語の4ヵ国語が対象言語ですが、それぞれの言葉を学んでいる人たちがたくさん参加してくださいました。多文化共生が進む現在、言葉や文化の障壁を乗り越え、安心して生活できる環境作りの第一歩として、まず、語学を通して、できることから始めたいと思っています。残り3回の講座では、語学トレーニングを中心として、実践的に行っていきたいと考えています。

講座担当 原和子さん

お知らせひろば

お申し込み・お問合せは当協会まで
TEL 076(444)0642 FAX 076(444)0643

行 事	日 時	と ころ	担当委員会	参加費	対 象
多国言語文化交流クラス 「エジプト&エジプトアラビア語」	1月5日(土) 13:30～15:00	当センター	国際教養	200円	会員
新春国際交流のつどい2008	1月12日(土) 14:00～16:00	CiC5F多目的ホール	合 同	外国人500円 日本人1,500円	会員・外国人
太極拳	1月20日(日) 13:30～15:00	当センター	文化交流	無料	会員・外国人
富山大学留学生ホームビジット	1月26日(土) 10:00～17:00	—	ボランティア	—	—
料理教室「銭さんといっしょに餃子をつくりましょう」	2月7日(木) 10:30～13:30	富山市中央保健福祉センター	ボランティア	300円	会員・外国人
多国言語文化交流クラス 「イラン&ペルシャ語」	3月1日(土) 13:30～15:00	当センター	国際教養	200円	会員
中国語会話集中講座(全5回)	3月 未定	当センター	国際教養	未定	
もっと知ろう世界の街「ロシア」	3月 未定	当センター	文化交流	無料	会員・外国人

語学(災害)ボランティア養成講座(韓国語)修了

災害ボランティア活動支援のための(語学)養成講座として6月から10回のカリキュラムで行われた韓国語の講座は、11月17日に修了しました。

修了式では29人の受講者に修了証が渡されました。

広報委員会からのお願い

私たち、広報委員会スタッフは、協会規約によって3月を持ちましてその任期を終えることになりました。協会設立以来、会員のみなさんをはじめ、多くの方々の指導、ご協力をいただきながらニューズレターを作り続けることが出来ました。ありがとうございました。

新年度より「あなたの思い」で新しい「TCA-NEWS-」を発信しませんか。

ぜひ、あなたからのお申し出をお待ちしております。事務局の方までご連絡下さい。

編集後記

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年、11月12日「〇×△□…」変な電話だなと切ろうとした時「モシモシ オカダサン Rデスヨ。オゲンキデスカ」「エッ Rさん? どうしたの」「イマ、ダッカデスヨ」と…ビックリしました。用件は、「Iさんが東京で開催される学会で発表します。その時、会いに行きたいと言っているの少し時間を空けてあげて下さい」と言う電話でした。私は、もう、頭も心も動揺して、息子に会うような、うれしいやら、なつかしいから…。

11月16日、Iさんから電話がありました。「今、富山にきています。Tさんにも会えたらいいのですが…」と。早速Tさんを誘って待ち合わせしました。思い出話や近況をたくさん話しました。そして「もう、10年もたつのに日本語を忘れたかった?」と言うと「いつか必ず日本に行ってみんなに会いたい」とずっと思っていた」と目をかがやかせて、ドイツやイギリスほか世界の国々で研究を重ねたこと、日本での国際学会に招かれたことなどを話しました。たった2時間足らずの再会でした。何度も振り返って手を振って、そして、大阪行きの夜行のバスで…。

私と彼らとは、ボランティアグループ「T・H・H(富山ハンドインハンド)」が、富山にきた留学生たちに生活用品を提供したり、交流しながら生活を応援しようとして開催しているバザーで出会いました。T・H・Hは、私たちが平成4年以来、十数年間ささやかな活動を続けているボランティアグループです。そして、富山での生活のこと、病気や出産のことなどで相談を受けてお母さんだったり、お姉さんとなったりしてずっと交流をしました。

空からみれば、みんな地球の家族です。HEART to HEART…国籍や民族・文化の違いがあっても、みんな一緒に生きていきたいですね。

広報委員長 岡田昌代